



いさり火

【第3号】

西津小学校

令和8年6月5日



新年度がスタートして2ヶ月が経ちました。新しい環境への緊張感もほぐれ、子どもたちは学校生活のペースをしっかりと掴み始めています。日々の授業や係活動に主体的に取り組む姿からは、4月よりもひと回り大きくなった頼もしさを感じます。

特に6月は、4月からの緊張や5月の大型連休・行事の疲れが一気に出やすい時期でもあります。また、学校生活に慣れてきた一方で、少し気が緩んだり、小さなトラブルが起きやすくなったりする「中だるみ」の時期でもあります。学校では、子どもたちの小さな変化やサインを見逃さないよう、丁寧な見守りを行ってまいります。ご家庭でも「いつもより元気がないな」と感じられたときは、じっくり話を聞いてあげたり、早めの就寝を促したりするなど、いつも以上の温かいサポートをお願いいたします。

また、雨の日は視野が悪くなり、路面も滑りやすくなります。登下校の交通安全についても、学校で声をかけていきますので、ご家庭でも一言お声がけいただけますと幸いです。



「美点凝視」(びてんぎょうし)

誰にもよいところと欠点があります。それは、どの人も分かっていることです。しかし、どちらかと言えば、欠点ばかりに目がいきがちだと答える人が少なくないと思います。もし自分が欠点ばかり言われ続けたり、ダメ出しばかりされたりしたらどうでしょうか。きっとやる気を失ってしまったり、どうせやっても何か言われるのでやりたくないなど、後ろ向きの考えになったりするのではないのでしょうか。また、相手の欠点ばかりを指摘している人は、この人はダメな人と決めつけ、相手が本来もっているよさを見付けることが困難になりがちではないのでしょうか。それだけでなく、欠点の指摘がさらにエスカレートすることもあるようです。

一方、自分のよいところ(自分が気付いていないこともある)を伝えてもらったら、どのような気持ちになるでしょうか。まずは誰もが嬉しく思うはずです。そして、はたから見れば些細に思うことでも、伝えてもらった本人にとっては励みになり、自信になっていきます。この自信は、自分のよさを一層いかそうとしたり、苦手なことや無理だと思っていたことにも前向きに取り組もうとしたりすることにつながっていきます。それは、欠点に目をそむけず、その克服に地道に努力しようとするということにも結び付いていくと思います。さらに、伝えてくれた人に対して、「自分のことをよく見ている」という信頼感が生まれるに違いありません。また、相手のよさに気付いた人も、人の見方が大きく変わることでしょう。互いのよさを見付け、それを認め合うことであたたかい雰囲気が生まれ、明るいコミュニケーションを図ることができると思います。

「美点凝視」(びてんぎょうし)という言葉があります。「相手の長所や徳性に意識的に目をむけること」を意味した言葉です。この「美点凝視」の習慣を身に付けていくことが、相手のよいところを見付けるために大切なことだと考えます。学校でも子ども同士がよいところを見付け合い、認め合うことを大切にしていける場面を増やしていければと考えています。『よく見れば なずな花咲く 垣根かな』…よく見ると、目立たずひっそり咲いているなずなの花に感動した松尾芭蕉の句です。人のよさを見付けることと、どこか重なるように思います。

「体育大会」を終えて

1学期最大のイベントである『体育大会』を5月29日(金)に盛大に開催することができました。この学校行事を通して、子どもたちはあらゆる面においての成長を見せてくれました。

特に、本校の強みの一つである「色別活動による縦のつながり」が十分機能していたことを大変うれしく思っています。上級生としての責任ある振る舞いと行動。そして、その先輩の姿を見てリーダー像を確立していく下級生。仲間とともに集団の一員としての自覚と責任を全身で感じながら、日に日にたくましくなっていく西津っ子を誇らしく感じました。



【リーダーとして大活躍の6年生】

そう感じられたのも、子どもたちの頑張りはもちろんのこと、「縁の下の力持ち」に徹しながら子どもたちと関わり続けた先生方、そして何より練習期間中および当日の保護者の皆様やご家族の方々の温かい励ましの言葉かけのおかげと感謝しております。



週が明けた月曜日、ある学年の担任より児童のご家族からお手紙を頂戴したという報告があり、拝読いたしました。

本校の取組を評価していただきましたことを大変うれしく感じるとともに、これからも子どもたちやご家族の皆様、地域の方々の思いにお応えしていかなければと身が引き締まる思いがしました。

今回、ご本人の了解を得ておりますのでお手紙の一部を紹介させていただきます。

いつもの体育大会と違うこの空気感…何だろう？

そうだ、BGMがないんだ、運動会用の音楽が流れていない。

先生の指示や「早く早く 並んで並んで 座って座って」の声がない。

審判の先生方以外にグラウンドに先生の姿が見えない。

子どもたちの歓声と応援の声、励まし合いの声で会場は大いに盛り上がっている。

子どもたちは、誰にも指示されずに動き、自分の役割をしっかりと果たしている。

ひとり一役をみんなが一生懸命に務めている。きびきびとリズムよく。

応援席は整然として、子どもたち全員が全体の動きを把握しているようだ。

子どもたちが自分たちで、体育大会を動かしている。 なんとということ…

怪我をして競技に参加できない子どもたちも大きな声で一生懸命にがんばっている。

こんな仲間がいると、自分も声が出せる。 みんなすごい。

クラスがみんななかよしで仲間を思いあえる、

ここにいて安心、失敗しても大丈夫、みんなで補え合う関係の中で、

孫が学校生活を送れるなんて嬉しすぎます。

子どもたちのすべての力に感動させていただきました。

思うことは、学校での学びや体験を最大限実りあるものにしていくには、

やはり、家庭の在り方が何より基本で重要と改めて感じています。

家庭でパワーチャージ、明るく送り出す…このことに尽きますね。